

第1学年 生活科学習指導案

令和3年6月15日(火) 第5校時 体育館

指導者 太田 美香

1 単元名 「シャボン玉パーティーを開こうーとっておきのシャボン玉を作ろうー」

2 単元目標

- ・液や道具、道具の使い方を工夫してシャボン玉を作り、数や大きさなどが変わることの面白さに気付くことができる。(知識・技能の基礎)
- ・試行錯誤を繰り返す中で、改良方法を見つけ、自分のとっておきのシャボン玉の作り方を考えることができる。(思考・判断・表現の基礎)
- ・とっておきのシャボン玉を作りたいという思いをもち、その思いを実現するために、すすんで試したり、友達の意見をいかそうとしたりする。(主体的に学習に取り組む態度の基礎)

3 単元の構想

児童の実態

- 物事を素直に受け止め、前向きに取り組むことができる。
- 係の仕事や当番活動などに一生懸命取り組むことができる。
- 自分の考えだけで満足してしまうため、友達の考えを知りたいと思ったり、自分の考えを伝えたいと思ったりする意欲が低い。

教師の願い

自分の工夫を伝えたり、友達の工夫を聞いたりすることの良さを感じてほしい。また、自らの経験と比べたり、友達の工夫を取り入れたりして試行錯誤しながら、自分の思いや願いを実現するためにすすんで挑戦してほしい。

教材観

- ・シャボン玉は、液や道具、道具の使い方などの面でいろいろな改良方法があり、「比べる」「見付ける」「試す」の過程を通して、遊びの面白さを味わうことができる。
- ・シャボン玉は身近な遊びであるため、自分の経験をふり返って考えることができる。
- ・シャボン玉は、身近な材料で準備ができるため、改良結果を即座に検証することができる。

指導観

- A シャボン玉とたくさんふれ合う中で生まれた児童の疑問ややってみたいことを取り上げ、工夫してシャボン玉を作ってみようという意欲を高める。
- B 「試す→話し合う→改良する(→試す)」というサイクルを取り入れる。
- B 自分と同じ「とっておきポイント」を追究している児童と意見の交流ができるように、道具の置き場所を工夫する。
- C 研究したシャボン玉の面白さを6年生に伝える場を設ける。

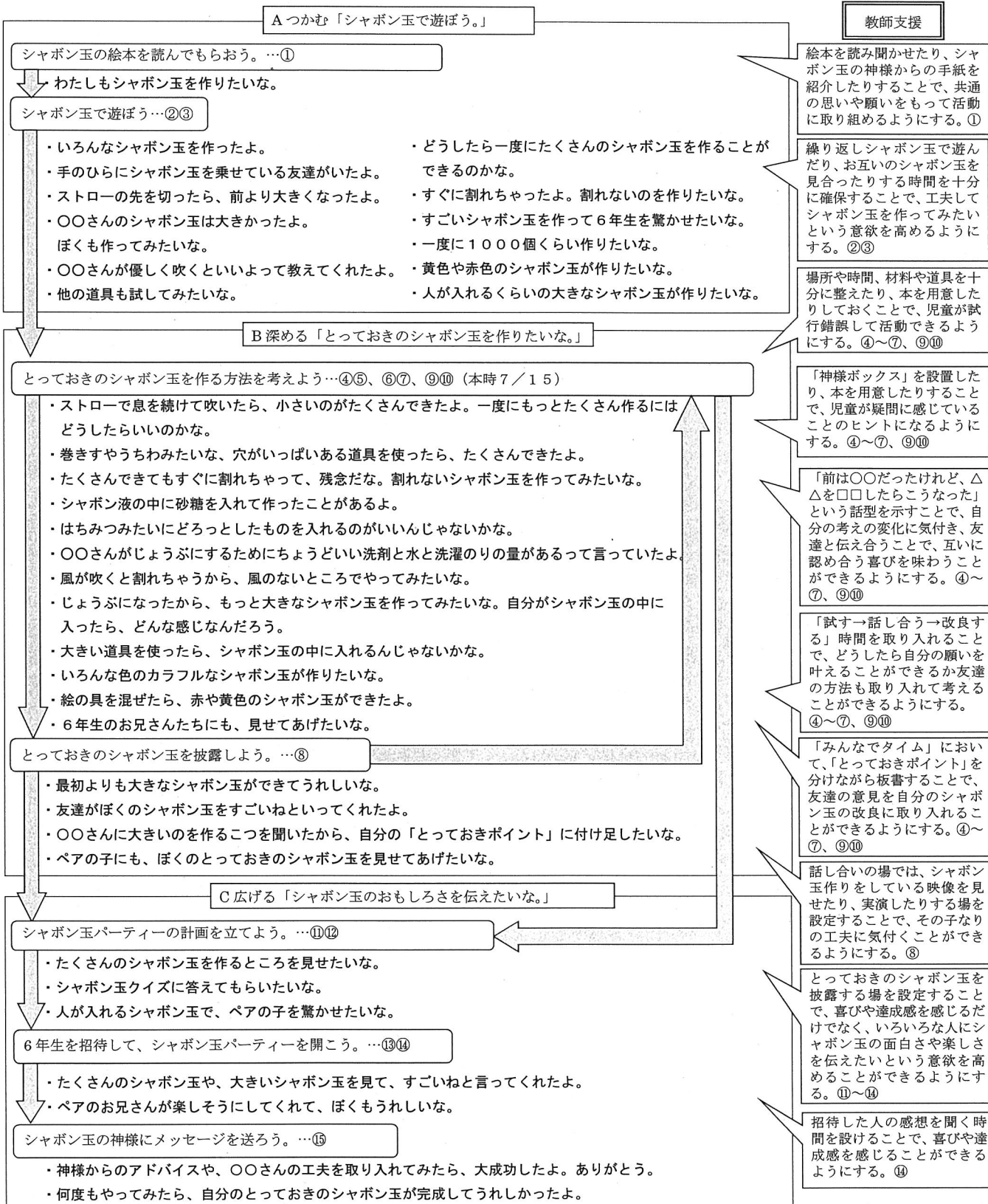
単元を終えた子どもの姿(自分の未来を切り拓く桜町っ子)

- ・友達との交流を通して、「もっとこうしたい」という思いをもち、よりよい方法を見つけ出そうとする子ども。

<児童の実態>

○物事を素直に受け止め、前向きに取り組むことができる。

●自分の考えだけで満足してしまうため、友達の考えを知りたいと思ったり、自分の考えを伝えたいと思ったりする意欲が低い。



<未来を切り拓く桜町っ子の姿>

・ 友達の話を聞いたら、今まで知らなかったことが分かってうれしかったよ。

・ もっとすごいやり方を考えたから、みんなに聞いてほしいな。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・自分が試した方法を伝えたり、友達の意見を取り入れたりしながら、とっておきのシャボン玉を作る方法を考えることができる。(思考・判断・表現の基礎)

(2) 本時の学習課題

とっておきのシャボン玉を作る方法を考えよう。

(3) 期待する「学びの深まり」

児童同士の関わりや話し合い、試行錯誤の時間を通して、自分のシャボン玉に取り入れられそうなポイントを考えることができる。

(4) 展開

階	学 習 活 動	指 導 と 支 援
つかむ5分	<p>1 前時の学習をふり返り、自分が作りたいシャボン玉が作れたかどうか満足度を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きく作るための「とっておきポイント」を見つけることができなかつたから、真ん中くらいかな。 <p>2 学習課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「シャボンパワーメーター」を使って、現時点での自分のシャボン玉作りの満足度を視覚的に示すことで、課題をもって授業に取り組めるようにする。
深める30分	<p>3 どうやってシャボン玉を作ったか伝える。</p> <p>みんなでタイム</p> <p>☆もっと大きなシャボン玉を作りたいな。どうすればいいのかな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Aさんのシャボン玉は、どうしたらもっとよくなるかな。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・前はストローを使っていたけれど、うちわをゆっくり動かすようにして使ったら、すごくたくさんできたよ。 ・前は手だけ動かしてやっていたけれど、歩きながらやってみたら、長くて大きいのができたよ。 ・ストローより牛乳パックの方が大きいシャボン玉が作れたから、穴が大きい方が、大きくできそうです。 ・液にはちみつをいれると、じょうぶなシャボン玉になって、大きくてもわれないのができるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「シャボンパワー」が少ない児童の思いを取り上げ、全員が同じ目標に向かって、より良い方法を見つけたいという課題意識をもてるようにする。
	<p>4 話し合いで出た視点をもとに、自分のシャボン玉を改良し、試す。</p> <p>一人でタイム・シャッフルタイム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前は道具を早く動かしていたけれど、ゆっくり動かしてみようかな。 ・穴が大きい道具でやったら、大きいシャボン玉ができそうだな。もっと大きい穴の道具はないかな。 ・割れにくくてきれいなシャボン玉が作りたいな。〇〇さんにどうやるといいか、聞きに行ってみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・座席を「コの字」にすることで、意見を伝え合いやすくする。 ・前時の活動をふり返って考えるように促すことで、自分の「とっておきポイント」を明確にして、話し合いに参加できるようにする。 ・道具、液、道具の使い方の三つの視点に分けて板書することで、自分に必要な方法を選択できるようにする。 ・実演したり、前時までの様子を録画した動画を見ながら説明したりする場を設けることで、より分かりやすく伝わるようにする。
ふり返る10分	<p>6 自分が作りたいシャボン玉への満足度がどう変化したかについてふり返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇くんと〇〇さんの「とっておきポイント」を試してみたら、割れにくくて大きなシャボン玉ができたから、うれしかったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「シャボンパワーメーター」にネームプレートを貼り、満足度の変化を視覚的に捉えられるようにすることで自分自身への気付きを促し、次時への意欲を高められるようにする。

(5) 評価

- ・自分が試した方法を伝えたり、友達の意見を取り入れたりしながら、とっておきのシャボン玉を作る方法を考えることができたか活動やふり返りから判断する。

(6) 板書計画

とっておきのしゃぼんだまをつくろう

かだい とっておきのしゃぼんだまをつくるほうほうをかんがえよう。

まへのしゃぼんばわあめえたあ

まんたん

まあまあ

すこし

まだまだ

・もっとおおきいしゃぼんだまをつくりたい。

写真

もっとよくするには、どうしたらいいのかな。



とっておきのしゃぼんだまをつくろう

かだい とっておきのしゃぼんだまをつくるほうほうをかんがえよう。

まへのしゃぼんばわあめえたあ

まんたん

まあまあ

すこし

まだまだ

・もっとおおきいしゃぼんだまをつくりたい。

写真

もっとよくするには、どうしたらいいのかな。

きょうのしゃぼんばわあめえたあ

まんたん

まあまあ

すこし

まだまだ

みんなのとっておきぼいんと

えき

・あかいろのえのぐをいれた。
われにくい
おおきい

・はちみつをいれた。
われにくい
おおきい

どうぐ

・あながおおきいどうぐをつかう。
おおきい

・あなが1つのどうぐをつかう。
おおきい

どうぐのつかいかた

・ゆっくりうごかす。
おおきい

・あるきながらやる。
おおきい

・やさしくやる。
おおきい